

令和7年度 学校評価 学校関係者評価書		学校名	三木市立広野小学校
1 学校教育目標			
2 本年度の重点目標			
3 自己評価結果(達成状況) ( A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない )			
評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
<p>○基礎・基本の確実な定着と個を伸ばす学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週3日の学習タイムと週2日の読書タイムを15分間設け、読書の推進およびプリント学習やデジタルドリル(eライブラリ)を使って反復練習に取り組み、基礎・基本の定着を図った。</li> <li>・デジタルドリル(eライブラリ)を活用し、個別に単元や問題を選択して取り組ませることで、より個に応じた学習の定着を図った。</li> <li>・週1回程度、放課後に「広野ががんばり学びタイム」の時間を設け、3～5年生において、特に知識習得に課題のある児童を対象に、算数の四則計算を中心とした基礎的な知識を身に付けるようにした。</li> </ul> <p>○論理的に考え、伝え合う力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング学習を取り入れることにより、協働的に問題解決に向かいながら、思考を整理したり順序立てて考えたりする場を設定するようにした。</li> <li>・相手意識をもって思考を組み立てる力をつけるために、文字数を制限して要約したり、条件に合わせて考えを表現したりする活動を取り入れた。</li> <li>・1人学びで自分の考えをもち、タブレットを使用したり話し合う場を工夫したりすることで、誰もが授業に参加し、考えを広く深めたり、他者と比較したりする場を設定した。</li> </ul> <p>○主体的・協働的に学ぶ意欲と態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に応じた「自主学習の手引き」を作成し、全校生で自主学習に取り組んだ。また、参観日やオープンスクールなどでノート展を開催し、家庭にも啓発していくことで、自主学習の充実を図った。</li> <li>・単元内自由進度学習を取り入れ、児童自らが学習計画を立て、めあてに向かい主体的に学ぶようとする力を育てたり、学習進度を調整しながら取り組もうとしたりする態度を養った。</li> <li>・学習内容に沿って伝え合いの形態を工夫し、ペア学習やグループ学習等を積極的に取り入れることで、思考を共有し、個々の考えが深まるきっかけをつくったり、仲間と共につくりあげる喜びを感じたりすることができるように単元を計画した。</li> </ul> <p>○自ら方法を選択し、学習に生かすICT活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら方法を選択し、学習に生かすICT活用能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習や課題が早く終わりに余った時間には自分で課題を設定し、タブレットを活用した学習に取り組ませた。</li> <li>・調べ学習や学習のアウトプット、または学びのポートフォリオなどのツールとして学習ソフトやアプリを選択し、児童自らが表現方法を工夫できるように学習内容の充実を図った。特に、Canvaを活用した共同編集や共有機能を通して、互いの意見を積極的に交流できるように工夫した。</li> </ul> </li> <li>・各学年の発達段階に応じたデジタルティズンシップ教育(ネットモラル学習等)に取り組むことで、タブレットの操作能力だけでなく、情報収集や情報選択の際の意識向上を図った。</li> </ul> <p>○兵庫型学習システム及び教科担任制による学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科を分担することで、よりきめ細かな教材研究や教材準備ができ、「分かる授業」「楽しい授業」の充実を図った。</li> <li>・より多くの教師が関わり指導していくことで、学習面だけでなく生活面においても共通理解ができ、より個に応じた指導に役立てた。</li> <li>・理科・外国語の兵庫型学習システム教員による専門性を生かした学習を展開することで、児童の興味を引き出し、深い学びにつなげた。</li> </ul> <p>○小中一貫教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三木東中学校区で各教科の課題を共有し、課題解消に向けて実践をおこなった。</li> </ul>	<p>○基礎・基本の確実な定着と個を伸ばす学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成(知)</li> <li>・命や人権を大切にすること、思いやりの心の育成(徳)</li> <li>・体力や学力、自主性やリーダー性の育成(体)</li> </ul>	<p>・朝の学習タイムをより充実させるために、個に応じた学習の内容を準備したり指導を行ったりすることで、児童に達成感や肯定感をもたせる。</p> <p>・「広野ががんばり学びタイム」について、担任と地域指導者との密な連携により、児童の学習実態を共有し、個に応じた学習を提供するなどして指導の効果を高める。</p> <p>・各教科の学習の中で、児童が自分で計画を立てて主体的に学習を進める授業展開を積極的に行う。</p> <p>・児童の学習を評価し、学習意欲を高めているような例を示し、他の児童に共有することで、それぞれが更に意欲的に学習に向かうことができるようにする。</p> <p>・伝え合いの場の設定等について、来年度も継続して研究を深め、更なる伝え合いの効果の向上を図る。</p> <p>・兵庫型学習システム及び教科担任制を有効活用し、児童の実態把握や個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>・学びを深めたり広げたりする一つの手立てとしてプログラミング学習を積極的に取り入れ、プログラミング的思考を養い、児童の興味関心を引き出す学習展開を工夫する。</p> <p>・個別最適な学びと協働的な学びを充実させるために、個々の児童理解を図り、学習方法を自ら選択できる環境を整える。</p> <p>・タブレット活用の充実とともに、ネットモラルだけでなく、広くメディアリテラシーの観点をもった指導を行っていく。</p> <p>・教師自らが、新しい学習方法や学習教材を積極的に取り入れていくために、研修等の充実を図り、教師間で共有していく。</p> <p>・教科の枠を広げて中学校との連携を図り、9年間の学びを実現していく。</p> <p>・中学校で取り組んでいる朝の学習タイムの形態やテスト期間の取り組みを小学校でも取り入れてスムーズな中学校への移行が出来るようにする。</p>	<p>学校園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価Bは妥当であるが、取り組みの質からするとやや低いと感じる。しかし、学校としては基礎基本の定着と意欲的な学びの両立を目指し、継続的かつ計画的に改善を図っていることから、今後のさらなる成果が期待される。</li> <li>・児童の主体性を高めるための授業づくりに継続的に取り組んでおり、学級・学年の実態に応じてペア活動や班活動を効果的に取り入れている点が評価できる。教師が一人一人の児童に寄り添いながら指導方法を工夫していることは、学校として大切にしている方向性と一致しており、今後の児童の成長につながる基盤が整いつつあると感じられた。</li> <li>・児童がタブレット学習やCanvaなどのICT活用に意欲的に取り組んでいる姿がうかがえる。特に、口頭での発表が苦手な児童がICTを活用することで自分の考えを表現しやすくなるなど、多様な児童の学びを支える手立てとして機能していることが示された。これらの場面で児童の良さや努力を積極的に評価していくことが、さらなる学習意欲の向上につながるかと考える。</li> <li>・学習への意欲については、授業改善の取組が児童の内的動機づけに一定の成果を挙げていると言える。取組の状況や改善方策についても、学校として精力的に進められており、その姿勢は評価に値する。児童や保護者が学習面での成長を明確に実感するよう今後も一人一人の特性を踏まえた授業づくりの継続を期待する。</li> <li>・タブレット端末が日常化したことにより、ゲーム・動画視聴などの誘惑も身近になっている現状を踏まえ、デジタル・シティズンシップ教育の充実は今後さらに重要と踏まえる。</li> </ul>
<p>○よりよく生きる力を引き出す道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別活動や家庭・地域と連携した確かな道徳実践の蓄積</li> <li>○地域人材や兵庫版道徳教育副読本を活用したふささを愛する心の育成</li> <li>○自己実現と共生をめざす人権教育の推進</li> <li>○人権についての正しい理解と認識を基盤とした豊かな人権感覚の育成</li> </ul>	<p>○よりよく生きる力を引き出す道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書改訂後の全面实施により、各学年で内容項目や指導時期について見直しした。さらに、生活目標や他教科と関連させて指導していくことで、道徳科の時間に培った力を実生活に生かそうとする児童の姿が見受けられた。</li> <li>・人権月間では、人権集会を4週にわたって開催し、人権標語・人権ポスターの紹介や人権作文の朗読を行うなど、全校生が人権について考える機会をもった。「みんなが違ってみんないい」をテーマに、大切にしたい周りの人との違いや友達の良いさを紙に書いて模造紙に貼り、全校生が見える場所に掲示する取組をおこなった。また、中央図書館と連携し、関連図書を借りて掲示する取組も試みた。更に、人権月間中に親子参観日を設け、これらの掲示物を保護者や地域の方にも公開した。</li> <li>○特別活動や家庭・地域と連携した確かな道徳実践の蓄積 <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子人権参観に向けて内容を各学年で検討し、参加型の授業内容にしたり、通信で周知したりすることで、家庭と連携して児童や保護者の人権感覚を高めることができた。</li> <li>・特別活動では、異年齢で活動を行う機会を多くもった。月一回程度のスマイル班活動や、スマイルフェスティバルを実施することで、相手を思いやる心を育むことができた。</li> <li>・児童会役員を中心にあいさつ運動を実施し、児童集会などであいさつ競争をするなど、全校生での取り組みをこれまで以上に進めた。</li> </ul> </li> <li>○地域人材や兵庫版道徳教育副読本を活用し、ふささを愛する心の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブの方や地域のたふと交流する機会を持ち、地域の伝統文化やふるさとを大切にすることの育成を図った。</li> <li>・夏休みに兵庫版道徳教育副読本を活用した「親子読書」を全校生で実施し、家庭で話し合っ意見を交流する機会を設けた。</li> </ul> </li> <li>○自己実現と共生をめざす人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の児童の母語や遊びを調べて伝えようとしたり、日本の文化を伝えたりして外国籍の児童理解を図り、多文化共生を目指した。</li> </ul> </li> <li>○人権についての正しい理解と認識を基盤とした豊かな人権感覚の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定教材を用いた同和問題や、現代社会で起きている様々な人権課題を取り上げ、差別や偏見について目を向ける機会を設けた。</li> <li>・授業だけでなく、学級経営の中で、互いの意見を尊重する話し合いのルールづくりや、いじめや差別を許さない学級の雰囲気づくりなどに努めた。</li> </ul> </li> </ul>	<p>・道徳科の時間や人権月間だけでなく、日常的に仲間づくりなど、人権を大切にすることを意識させる指導を継続して行う。また、保護者にもその取組を日頃から積極的に伝え、家庭との連携を図る。</p> <p>・道徳の実践意欲や態度を称揚し、学んだことを生かそうとする気持ちを高められるような声かけを全教職員で意識していく。</p> <p>・ワークシートの活用について、全学年で共有し、授業の工夫・改善に努める。</p> <p>・人権月間の取り組みについて、家庭や地域と連携を図り、児童の人権感覚を高めていく指導を継続して行う。</p> <p>・郷土資料、兵庫版道徳教育副読本の活用を見直し、自分を取り巻く人や環境を大切にできるよう教材研究に努める。</p> <p>・地域の方を講師として招聘した学習を継続していく。</p> <p>・外国籍の児童と積極的に交流し、互いの文化の違いやよさを知り、認め合っていく環境づくりをする。</p>	<p>・地域の実態を生かした同和教育に継続して取り組んでおり、内容としては評価A相当の水準にあると感じられる。</p> <p>・現行の評価Bはやや低く、今後の取組にも大いに期待できる。</p> <p>・親子人権参観など、家庭と連携した人権教育が安定して実施されており、児童が日常の集団生活を通して人権感覚を育む機会が確保されている。</p> <p>・地域参画は近年希薄化しているが、三木南地区の行事への参加を含め、地域理解や郷土愛を育む取組をさらに進めることを期待したい。</p> <p>・日本語指導を要する児童への理解と共生の姿勢が継続されている点を評価する。</p>
<p>○生命の大切さを実感させる教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら身を守り、安全を確保する態度と実践力の育成</li> <li>○防犯・防災に対する児童と教師の危機対応能力の向上</li> <li>○家庭・地域と連携した登下校の安全確保</li> </ul>	<p>○生命の大切さを実感させる教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広野子パワーアップウィークを設定し、「からだ・こころ・いのち」について考える機会を設けた。(カウンセラーによる心の授業・赤ちゃん先生との交流・クイズウォークラリー・デジタルサイネージ)</li> <li>・保健体育委員会で、学期に1回クラス対抗スポーツを計画した。(ドッジボール大会・しっぽとり大会・大縄大会)</li> </ul> <p>○自ら身を守り、安全を確保する態度と実践力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前、事後指導に重きを置いた避難訓練ができた。</li> <li>・あまり経験したことがない、清掃時間に避難訓練を実施し、緊張感のある避難訓練ができた。</li> <li>・人命救助に関する職員研修をおこなった。</li> </ul> <p>○防犯・防災に対する児童と教師の危機対応能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の視覚支援を増やし、事故の未然防止ができた。</li> <li>・毎月の安全点検に加え、遊具の点検をおこなった。</li> <li>・昨年度より、実際を想定した不審者対応訓練が実施できた。</li> </ul> <p>○家庭・地域と連携した安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校班に遅れて通学する児童や、登下校中地域の方に迷惑となるようなことがあった場合は、学級指導を行うとともに、地区児童会や朝会・業間休み等で指導をおこなった。</li> <li>・登校班の合併や集合出発時刻の検討など、地区と連携して安全に登校できるように考えることができた。</li> </ul>	<p>・道徳科の時間や人権月間だけでなく、日常的に仲間づくりなど、人権を大切にすることを意識させる指導を継続して行う。また、保護者にもその取組を日頃から積極的に伝え、家庭との連携を図る。</p> <p>・道徳の実践意欲や態度を称揚し、学んだことを生かそうとする気持ちを高められるような声かけを全教職員で意識していく。</p> <p>・ワークシートの活用について、全学年で共有し、授業の工夫・改善に努める。</p> <p>・人権月間の取り組みについて、家庭や地域と連携を図り、児童の人権感覚を高めていく指導を継続して行う。</p> <p>・郷土資料、兵庫版道徳教育副読本の活用を見直し、自分を取り巻く人や環境を大切にできるよう教材研究に努める。</p> <p>・地域の方を講師として招聘した学習を継続していく。</p> <p>・外国籍の児童と積極的に交流し、互いの文化の違いやよさを知り、認め合っていく環境づくりをする。</p>	<p>・評価Aは妥当である。</p> <p>・子どもたちが「自分の命は自分で守る」ための知識・技術を身につける教育が適切に行われており、安心して過ごせる学校づくりに寄与している。</p> <p>・児童生徒の自殺者数が増加している社会状況を踏まえると、学校が子どもにとって安心できる拠り所であることの重要性が一層高まっている。</p> <p>・自分の命を大切に、同じように他者の命も尊重できる児童の育成、そして校内における児童の健康と安全の確保について継続的に進められることを期待する。</p>
<p>○一人一人のよさを生かした学級経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指導項目の重点化と具体化および保護者・関係機関との連携促進</li> <li>○児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決</li> <li>○SCやSSW等による教育相談体制の確立と組織的な指導の充実</li> </ul>	<p>○一人一人のよさを生かした学級経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子を月ごとに記録し、毎月の生活指導委員会・職員会議で配慮を要する児童や問題行動についての共通理解を図り、指導に生かしている。</li> <li>・毎月の生活目標について学級ごとに具体的な内容を掲示し、意識させることができた。また、話し合いにより、発達段階に応じて適切に指導することができた。</li> <li>・SCやSSWによる研修を実施し、「児童の主体性」をテーマとした研修を実施した。</li> </ul> <p>○指導項目の重点化と具体化および保護者・関係機関との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会や各委員会が主体となって啓発活動をおこなうことで、児童の自発的な行動につながっている。</li> <li>・タブレットの活用方法を確立し、情報モラルについての意識を高めることができた。さらに家庭への啓発を図ることができた。</li> </ul> <p>○児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決</li> <li>・心の健康観察を学期に1回ずつ行い、すべての児童に対してヒアリングを行い、学校の楽しさといった児童の内面的理解を図ることで指導に生かしている。</li> <li>・不登校児童、不登校傾向の児童に対する対応について、その都度、該当児童への対応策を練った。加えて、必要に応じてケース会議を開き、指導の充実にも当たった。</li> <li>・弁護士によるいじめ出前授業を実施した。</li> <li>・いじめに関する研修(夏季合同研修、校内研修、SCによる研修)を実施した。</li> </ul> <p>○SCやSSW等による教育相談体制の確立と組織的な指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動や不登校についてSCやSSWと連携を図りながら、教職員、保護者との相談や児童への指導にあたることができた。</li> </ul>	<p>・児童の実態に応じた指導を行うとともに、カウンセラーや外部機関とも連携しながら、生命の大切さを実感できる教育を継続する。</p> <p>・地域総合防災避難訓練で、防災について児童と保護者がともに考えられる場を設定する。</p> <p>・今後も、最新の危機対応のマネジメントに対する研修を続けていく。</p> <p>・定期的に、地区児童会などで、安全面や登下校のルールやマナーについて、視覚支援を活用してより児童が考えやすい場を設定する。</p>	<p>・評価Aは妥当である。</p> <p>・「広野子子のやくそく」については、児童の言葉でより明確に示す工夫の余地はあるものの、改善の方向性が見られる。</p> <p>・あいさつをコミュニケーションの基本として捉え、学校・家庭・地域が連携して継続的に取り組んでいくように願う。</p> <p>・弁護士による出前授業など、専門家の話を聞く機会を設けていることは、児童にとって有意義な学習となっている。</p> <p>・SNSの利用拡大に伴い、子どもが巧妙な犯罪や危険に巻き込まれる可能性が高まっている中、社会のルールを理解する教育の必要性が高まっている。児童が主体的にルールを覚え、自ら責任をもって決めていく機会を設けることは、より良い規範意識の育成につながるかと考える。</p>
<p>○児童が主体的に活動する特別活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が生かされ参画する学級活動の充実</li> </ul>	<p>○児童が主体的に活動する特別活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動では、常時活動やスマイルフェスティバルなどを通して、6年生が主体的に活動内容を計画し行動できるように指導、支援に努めた。また、縦割り班活動を通して、学年を超えて他者理解をしながら協力的な活動ができるように支援した。特にスマイルフェスティバルにおいては、1年生から5年生も主体的に取り組めるように、各学年に応じた役割を設定し、より主体的に取り組める活動となった。</li> <li>・委員会・クラブ活動では、自主的に活動内容を考えさせ、学校のために活動できていることに充実感・達成感を味わうことができるように指導、支援に努めた。また、児童数に応じた人数編成や内容を精選し、より実態に即した活動となるようにした。</li> </ul> <p>○一人一人が生かされ参画する学級活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が生かされ参画する学級活動の充実</li> <li>・学級活動では、よりよい学級づくりのためにそれぞれの課題について話し合い活動をおこなったり、学級生活の充実を図るための主体的な組織を作って協力して活動をしたりする機会を設けた。</li> </ul>	<p>・縦割り班活動を重ねる中で、異学年間で関わる機会が増え、相互理解につながった。今年度設定したスマイルフェスティバルの内容を更に充実させることで、交流がより深まるよう支援していく。</p> <p>・委員会活動・クラブ活動においては、児童が主体的に取り組むと考え活動している姿が見られた。より主体的な活動を旨とし、個々の役割が意識できるよう掲示物等を用いて視覚的にも支援していく。</p> <p>・主体的・主体的な学級活動にするために、各学級の実態に応じた課題を児童同士で共有させる。そして学級をよりよくするために互いの意見を伝え合う機会を積極的に設けていく。</p>	<p>・評価Bはやや低い印象があるが、今後の伸びしろを踏まえ、妥当であると評価する。</p> <p>・取組は精力的であり、現在以上の負担を求めるとは難しいほど計画的に実施されている。</p> <p>・縦割り班活動では、各学年が活躍できる場を工夫して設定しており、児童が互いに支え合いながら活動できる環境が整えられている。</p> <p>・自発的に活動できる場の確保を引き続き期待する。</p>
<p>○特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援委員会による支援体制および相談体制の構築</li> <li>○教員の専門性の向上と、個に応じた指導の充実</li> <li>○国際理解・多文化共生教育の推進</li> <li>○園中連携教育の推進</li> </ul>	<p>○特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の教育的ニーズに応じた「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成し、保護者・関係機関と連携しながら効果的な支援、指導をおこなった。</li> </ul> <p>○個に応じた指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を必要とする児童の実態把握や指導、進路相談、支援内容の協議、見直しを定期的におこない、教職員間で共通理解を図った。</li> </ul> <p>○国際理解・多文化共生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導の校内研修や日本語指導委員会において、日本語指導や多文化共生教育の必要性を共有する機会をもち、教職員の意識向上を図った。</li> <li>・対話型アセスメント(DLA)や日本語習得度確認シートを用いて、外国にルーツをもつ児童のこはの力を把握したり、「特別的教育課程」を編成した取り出し指導や日本語タイムを実施したりして、日本語指導や生活支援に努めた。</li> <li>・外国にルーツをもつ児童を含め、全児童が互いに国の文化や生活習慣等の違いやよさを認め合い、多文化共生理解が図られるよう日常的に指導、支援に努めた。</li> </ul> <p>○園中連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園小中連携教育の推進</li> <li>・園小小中の連絡会を開いたり、園所を訪問したりし、学校園との取組や園児、児童、生徒についての情報交換をし、連携を深めた。</li> </ul>	<p>・個別の支援・指導計画については、医療や福祉等の関係機関の情報を反映するとともに、評価や見直しを定期的に行う。</p> <p>・児童の実態の状態を踏まえた教育課程編成や交流・共同学習などについて実践事例を収集、発信し、教育内容・方法の充実を図る。</p> <p>・教科活動や遊びを通して多文化に触れる機会を増やし、学習の理解だけでなく学習意欲を高めるためにも、すべての児童にわかる授業づくりをしていく。また、新渡日の児童をはじめ、外国にルーツをもつ児童の日本語指導についても、継続して「特別的教育課程」の編成や人材確保に向けた取組など、さらなる校内体制づくりにも努める。</p> <p>・連絡会や交流等で園児・児童・生徒の共通理解を図り、連携を深めるとともに、特別支援学校や医療・福祉機関等からの専門的な助言を得る。</p>	<p>・評価Aは妥当である。</p> <p>・個に応じた指導は極めて重要であり、本校が真摯に取り組んでいる点を高く評価する。支援計画の作成と、それを実行できる人員配置への配慮も適切である。</p> <p>・多国籍にわたる外国にルーツをもつ児童への支援を継続して行っており、今年度は「日本語タイム」を設けるなど、個別ニーズに応じた支援が充実している。</p> <p>・関係機関との連携を例年よりさらに強化しており、一人ひとりを大切にす学校の姿勢が感じられる。</p> <p>・今後も個別的教育支援計画を教職員で共有し、児童一人ひとりに応じた丁寧な支援を継続してほしい。</p>

※「評価」に関しては、教職員・児童生徒・保護者の平均値を算出し、85%以上の項目をA、70%以上85%未満の項目をB、50%以上70%未満の項目をC、50%未満の項目をDとして判定しています。